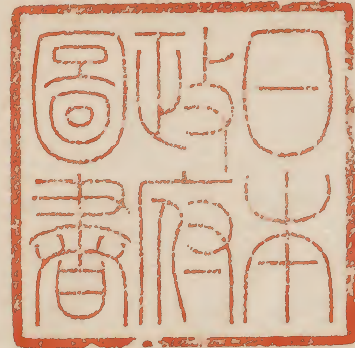


# 國鑑

五下

|      |          |
|------|----------|
| 庫文閣内 |          |
| 内閣文庫 |          |
| 番號   | 和 28392  |
| 冊數   | 11 ( 7 ) |
| 函號   | 185 4    |





漢草文庫

十四年中山乃君趙攻らそそ齊に為ゆ  
 十五年秦乃楚乃軍と攻り襄城を切と家  
 楚太子横攻人質と有り齊と和睦と  
 十六年初趙乃武靈王長子章を太子と  
 ありしり後よ孟姚と愛妾乃子何と  
 寵愛ありて國法借へ其身ハ隠居し  
 主父と号し迎習れ士少く石具し身證に  
 出立く胡乃攻と見えしり乃雲中

九原きうげんより東南乃ち秦の都咸陽かんやうと都みやこと  
見し秦は地利及秦王の人柄見んとす  
使者しやと傳うつり秦よ入いるを秦王も初はじめて見んと  
つらさるる一いつつ脱だつして其容儀ようぎをいふ人ひとと  
又またつらりし強あつくして追おうけしをこれと  
とや関せき所しよと出いるより秦人しんじん膽たんとを寒ひやし  
せは秦楚伐はつた城じやうハケ所しよと攻こうるより  
秦王楚王に書と賜り武関めと對面たいめんして

まればより兄弟乃ち契大と結むすむんとしひかり  
られハ懐王くわいわう怨うらみ念ねん議ぎをいふ昭しやう離り屈くつ平へい  
ずんと止とどめけしとも小せう子し子し蘭らんと進しんめよ  
らるる秦よ入いる秦王武関よ伏ふせ勢せいで  
是こゝと生い捕とら咸陽かんやう城じやう一いつと連つ行ゆきける折しも  
太子横人質とかりて齊よ河りられ大將の  
人ひとの外ほかれ王子とまんとしひりて昭離人  
ありはるる一いつつと齊よ其より告て太子と

遂（し）多國成継是と項襄王（けいじやうおう）といふ

十七年初秦乃昭襄王齊の孟嘗君（もうじやうきん）り賢

好（この）む一國及ひく涇陽（けいやう）君といふ連叔（れんしゆく）と

齊（せい）の人質（にんしやく）を厚（おほ）く孟嘗君（もうじやうきん）と連（れん）つて丞相（じやうしやう）と

あり心（こころ）を或（ある）人（ひと）孟嘗君（もうじやうきん）を齊（せい）に忠（ちゆう）ありん

たせりりある孟（もう）たれ秦（しん）乃（すなは）ち侍（しやく）為（な）るん先（ま）れしと

いふ者（もの）ありし一（ひと）人（ひと）實（じつ）之（これ）を事（こと）なり是（こゝ）に成（な）るは飛（と）て

脱（だつ）は殺（ころ）さんといふをありける孟（もう）嘗（じやう）君（きん）秦（しん）王（わう）に

寵（ちゆう）姫（き）よそのよりうれしありし一（ひと）人（ひと）寵（ちゆう）姫（き）梳（し）

白（はく）裘（じゆ）賜（たま）はらばし孟（もう）嘗（じやう）君（きん）只（ただ）一（ひと）乃（すなは）ち梳（し）白（はく）裘（じゆ）

何（なに）れと先（ま）よとや秦（しん）王（わう）に献（けん）りて今（いま）は

ある一（ひと）人（ひと）力（ちから）たれ士（し）に物（もの）盪（たう）とて小（せう）盪（たう）とる

事（こと）成（な）す得（え）る多（おほ）くあり多（おほ）く王（わう）乃（すなは）ち養（やしやう）り

志（し）乃（すなは）ち入（い）る梳（し）白（はく）裘（じゆ）と盪（たう）とて出（い）るは寵（ちゆう）姫（き）よ

送（おく）りたれハ（は）よりしよ中（な）かありあはく殺（ころ）し留（とど）まれ

ある秦王（しんわう）又（また）後（ご）悔（かい）し多（おほ）く追（お）ひとて裁（さい）つりける

孟嘗君秦と出く夜成日よついで既り  
園所は掛り多れと園乃とまて杖小んちやうは難唱されハ  
人とおうに遊むや近付んいりせん  
心子不る又侍よく難乃鳴真似まる者  
あり多れハ園乃難皆一同鳴くわと  
園乃戸あり多免たふしてと帰りて  
多しといひゆる職しやく業ありとも一巻  
あらん者ハ附つりて事の間と合とす

多し海のありり已り好ぶ教るハ世に  
解わかる乃るるハいひゆるハそのよ  
心得ぬ事ハ其の多孟嘗君乃難鳴  
物もの盗たう乃事ハいり多るるるる  
六ハ其戒よりや書しよ強ちやうしん  
かく多孟嘗君源く秦王と怨うらむて韓魏と  
牒だし合を秦伐伐く函谷関めて大に勝軍  
ありり秦王河東乃城やしろと割わて能徒と

入多<sup>ハ</sup>案<sup>カ</sup>き<sup>ル</sup>家<sup>ノ</sup>此<sup>ノ</sup>時<sup>ニ</sup>趙<sup>ノ</sup>四<sup>ノ</sup>平<sup>原</sup>君<sup>ト</sup>て  
公子<sup>アリ</sup>又<sup>侍</sup>と<sup>好</sup>て<sup>食</sup>客<sup>常</sup>と<sup>教</sup>ふ<sup>人</sup>  
河<sup>包</sup>して<sup>公</sup>孫<sup>龍</sup>孔<sup>穿</sup>切<sup>ん</sup>と<sup>人</sup>が<sup>集</sup>り<sup>し</sup>  
十八<sup>年</sup>楚<sup>乃</sup>懷<sup>王</sup>秦<sup>を</sup>逃<sup>れ</sup>と<sup>趙</sup>に<sup>行</sup>し<sup>ら</sup>  
そ<sup>を</sup>入<sup>ら</sup>せ<sup>り</sup>又<sup>秦</sup>よ<sup>ゆ</sup>き<sup>明</sup>十九<sup>年</sup>  
秦<sup>め</sup>て<sup>薨</sup>し<sup>り</sup>其<sup>喪</sup>と<sup>楚</sup>に<sup>復</sup>し<sup>り</sup>  
き<sup>れ</sup>楚<sup>人</sup>皆<sup>親</sup>戚<sup>乃</sup>と<sup>く</sup>に<sup>害</sup>を<sup>け</sup>る<sup>諸</sup>侯<sup>是</sup>  
是<sup>よ</sup>り<sup>し</sup>秦<sup>と</sup>直<sup>に</sup>に<sup>思</sup>ひ<sup>き</sup>る<sup>家</sup>

か<sup>く</sup>思<sup>は</sup>れる<sup>懷</sup>主<sup>と</sup>た<sup>は</sup>楚<sup>人</sup>の<sup>か</sup>  
う<sup>の</sup>ひ<sup>を</sup>き<sup>ひ</sup>ある<sup>は</sup>實<sup>も</sup>忘<sup>れ</sup>  
い<sup>や</sup>と<sup>記</sup>物<sup>と</sup>て<sup>見</sup>る<sup>は</sup>道<sup>に</sup>下<sup>れ</sup>  
思<sup>ひ</sup>を<sup>移</sup>す<sup>は</sup>事<sup>ハ</sup>御<sup>り</sup>君<sup>乃</sup>  
誤<sup>多</sup>き<sup>り</sup>と<sup>て</sup>ん<sup>と</sup>あ<sup>る</sup>

二十<sup>年</sup>趙<sup>乃</sup>主<sup>父</sup>燕<sup>齊</sup>の<sup>軍</sup>と<sup>あ</sup>り<sup>終</sup>よ  
中<sup>心</sup>と<sup>打</sup>滅<sup>し</sup>兼<sup>て</sup>の<sup>本</sup>意<sup>は</sup>遠<sup>く</sup>六<sup>の</sup>  
其<sup>よ</sup>り<sup>あ</sup>る<sup>は</sup>國<sup>中</sup>よ<sup>大</sup>教<sup>と</sup>り<sup>し</sup>又<sup>國</sup>中<sup>の</sup>

人よ酒乃を遊あそばせ乳ち哺かせしむるをみむる  
間ゆきあり世時王乃母はは死しす  
これハ王みれ寵愛ちゆうあいも喜よろこぶるし王  
祥けんと胡こもある時主父しゆふ物もの教しやうるをみむる  
太子公子章乃たうし面めん面めんりきくを背せよ属じゆくする  
多おほく公子章と代乃地しろの王とせむる  
思おもひけるいすし治定ちぢやうをれりけき公子章

その後のち回まわり禮らいと傳つたへて竊せきやくの酒と奪うばふもの  
企こころわく主父しゆふハかゝるをあるに王と伴ともひ  
汝なんぢ官くわん中ちゆうにあり遊あそばるる公子章折しやうは  
うしと亂らんと起おこし主父乃しゆふ治ち定ぢやうありや傳つたへて  
王とむる肥義ひぎの故ゆゑかゝるおのひとや  
系けいり多おほく折しやうは河かの折しやうこれと殺ころすけき  
李り兌たい公子こうし成せい周しゆうはもて執しやくと催もよほす打うて折しやう  
け折しやうハ公子章教しやうくにたのむ主父の旅りょ館くわん

逃<sup>逃げ</sup>難<sup>がた</sup>うしと績<sup>しん</sup>く是と取<sup>と</sup>圍<sup>い</sup>公<sup>こう</sup>子<sup>し</sup>章<sup>しょう</sup>并<sup>び</sup>に  
田<sup>た</sup>不<sup>ふ</sup>禮<sup>れ</sup>と殺<sup>ころ</sup>し每<sup>ま</sup>飯<sup>い</sup>黨<sup>とう</sup>と平<sup>へい</sup>ありけり  
李<sup>り</sup>光<sup>こう</sup>等<sup>ら</sup>思<sup>おも</sup>ひき難<sup>がた</sup>公<sup>こう</sup>子<sup>し</sup>章<sup>しょう</sup>互<sup>たがひ</sup>にひれり  
主<sup>しゅ</sup>父<sup>ふ</sup>乃<sup>な</sup>法<sup>は</sup>屋<sup>や</sup>秋<sup>あき</sup>と圍<sup>い</sup>ありけり  
ゆて引<sup>ひ</sup>きんよ是<sup>こゝろ</sup>我<sup>われ</sup>輩<sup>ら</sup>よと安<sup>やす</sup>徳<sup>とく</sup>ゆ  
ある魚<sup>いさな</sup>ふ主<sup>しゅ</sup>父<sup>ふ</sup>と出<sup>い</sup>り氣<sup>き</sup>く生<sup>な</sup>れを猶<sup>なほ</sup>と  
嚴<sup>げん</sup>く取<sup>と</sup>食<sup>く</sup>事<sup>こと</sup>食物<sup>じきぶつ</sup>とあはけり  
後<sup>のち</sup>是<sup>こゝろ</sup>崔<sup>すい</sup>乃<sup>な</sup>鼓<sup>こ</sup>張<sup>ちやう</sup>城<sup>じやう</sup>出<sup>い</sup>り食<sup>く</sup>事<sup>こと</sup>食<sup>く</sup>事<sup>こと</sup>二月

餓<sup>う</sup>ゆ<sup>えん</sup>ゆ<sup>じ</sup>毎<sup>ま</sup>飢<sup>い</sup>死<sup>し</sup>を<sup>お</sup>こ<sup>し</sup>る<sup>ま</sup>事<sup>こと</sup>あり

所<sup>ところ</sup>々<sup>々</sup>に<sup>こゝろ</sup>此<sup>こゝろ</sup>英<sup>えい</sup>邁<sup>まい</sup>と圍<sup>い</sup>えり武<sup>ぶ</sup>靈<sup>れい</sup>王<sup>わう</sup>と  
か<sup>か</sup>る<sup>か</sup>儀<sup>ぎ</sup>事<sup>こと</sup>紀<sup>き</sup>所<sup>ところ</sup>乃<sup>すなは</sup>果<sup>は</sup>と<sup>な</sup>り

實<sup>じつ</sup>と廢<sup>はい</sup>立<sup>た</sup>の災<sup>さい</sup>ハ<sup>は</sup>た<sup>た</sup>を<sup>お</sup>こ<sup>し</sup>る<sup>ま</sup>事<sup>こと</sup>あり

此<sup>こゝろ</sup>年<sup>ねん</sup>秦<sup>しん</sup>魏<sup>ゑい</sup>冉<sup>ぜん</sup>と<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>丞<sup>じやう</sup>相<sup>しやう</sup>と<sup>あ</sup>り

二十二年韓<sup>かん</sup>魏<sup>ゑい</sup>秦<sup>しん</sup>と<sup>あ</sup>り<sup>ま</sup>魏<sup>ゑい</sup>冉<sup>ぜん</sup>右<sup>う</sup>史<sup>し</sup>白<sup>はく</sup>記<sup>き</sup>と  
以<sup>も</sup>名<sup>な</sup>將<sup>しやう</sup>攻<sup>こう</sup>進<sup>しん</sup>りて<sup>お</sup>不<sup>ふ</sup>得<sup>とく</sup>て<sup>お</sup>是<sup>こゝろ</sup>を<sup>お</sup>防<sup>ぼう</sup>り也



伊闕いごくめも切崩きりか一首二十四萬討反城  
五ごと攻落せせ一いく恩賞おんしょうとて白起はくせいと四尉しごうい  
やいふ官くわんよと志しきき祭さい布ふ款くわん

二十三年秦王楚王よ書と送くわんて一戰いっせん中ちゆうん  
少せう用よう意いあも意い威い一いれれ六ろく棟とう木ぼく王わう忍にんれて  
和議わぎとそ乃のく秦しんれ女にょと迎むかへて夫人ふじんとて  
あめりき款くわん

いりよたをら一いきれはそと正せい一いく父ふと

款くわん子し殺ころち一い秦しん乃の女にょ成せい要よう一いる事ことを

あまりにいひ甲斐かひ行ゆく是こゝはゆる

二十四年秦魏冉うゐと封ほう一い事こと穰侯じやうこうとて

二十五年秦乃魏冉魏を伐う魏うゐ河東かとう四百

里り乃地を秦よ贈くわんる韓かんと武遂ぶすい二百里にひゃく此

地と贈くわんる

二十六年秦乃白起魏と伐うて城じやう六十一ろくじゅういちと攻落せん

二十七年秦此昭襄王しやうじやうわうとつら西帝せいだいと稱なづへ

使と齊は居り多東帝とありき多と  
ありけれ、齊王蘇代り異見は従ひ帝と  
猶も事二日ゆて止りりけれ、秦と  
居りてゆり多事けき  
二十九年秦魏を伐魏安邑と歃して和睡に  
秦畫く魏人と追出して己り國人と入り  
多事宋乃國ハ世頃まで多えくは續き  
きりしは世附康王偃といふおろりける君

出来る物しと崔乃驪堂いふ多と産る  
事あり是天下は霸ある者左右ありと  
占りり康王よりあか多事兵記して勝と  
滅し齊楚をんと伐く數百里乃地球  
切取し六の事ハ社を驕慢れりありし  
天子射地を歃うら社稷と焼亡し  
長夜乃飲して座中此人は多事  
呼せ門外ら多事固井にあり多事進く小

萬歲也とび呼よ継つせき家けおんんとお思義の振

業乃なりと考くりしし其その不ふ行ぎやう桀しやく王わうよ似にたり

也なりと天下てんか是こゝと桀しやく室むろとその以もつひひありき

此年このとし齊せいと桀しやく推おし考くしし四人よににん散さんこの地ちを

康王かうわうと温おんとと子こ不ふ少せうの死しして宗そう亡むしあり

微子みけい啓けいより三十二代八百  
三十一年よしあり七

三十一年初燕乃昭王しやうわう回くわいよりて死しを吊たづなひ

病びやうととい百姓ひやくせいと甘かん苦く従じゆ同どうしし天下てんかの賢者けんしやと

得えて齊せい乃なり遺恨いこんととららんんとたのひされ

其その后ご下か郭かく隗ゑい中ちゆうと有ありり首くびをを置おけけ馬うまと

千金せんごふをを買かひひんんをを志しりり故ゆゑよよ馬うま死しししあり

其その骨ほねとと百金ひやくごふをを買かひひたりりけるる人ひとわわき

死しししありり馬うまととたたかかくく賞しょう航かう河かのの人ひと乃

ありりかかるるとと一いつ年ねんとと立たつつ教きやうよよ置おけけ馬

之この也なりとと一いつ年ねんとと立たつつ教きやうよよ置おけけ馬

今いま太王たいうわう賢者けんしやをを招まね集あつめめんととおおひひありり先

某、宋始よりしらんよおいて、某も始らん  
この歳人之出来ひおんこといひられ、  
昭王も教よりわあらんそ、郭隗も館と  
作り改め師あり、留くし、之も天下れ  
士是と、國我とし、を燕よ集り、も家  
中めも樂毅とし、名將も、國收と、せ  
日夜、國中、我、安んす、も、二十四年、め、  
あ、六、國、富、兵、活、く、なり、て、齊、の、透、間、と、  
そ、  
そ、

何ひも、齊、乃、滑、王、か、く、と、あ、く、決、定、と  
滅、して、う、ま、る、の、慢、れ、心、起、り、楚、よ、推、考、之、晋、と  
杞、一、又、東、西、周、張、傾、も、そ、子、と、あ、らん、也  
振、舞、く、諫、し、ひ、き、家、執、咄、陳、樂、も、ん、と、子  
賢、人、と、教、し、も、象、う、し、國、え、け、れ、昭、王、乃、  
時、節、あ、来、せ、り、日、頃、乃、本、望、遂、ん、と、  
韓、魏、趙、秦、四、國、と、信、く、ひ、樂、毅、行、り、  
し、皆、て、齊、よ、推、考、濟、西、め、く、一、戦、よ、伐、勝

續つづき母はは孫まご苗なえよ攻こう入いく四よ乃なり重おも寶たから分ぶん捕とらへ  
て燕えんよ持もち運とこひし六む昭しょう王わうよりつらふ樂がく毅ぎと  
魯ろ国こく君きみめを封ほうしける潛せん王わう、臨りん苗なえと成なりて  
昔むかし乃なり城しろよ逃にがれ多おほりしを焚たきり樂がく加か勢せいとて  
先ま城しろより人ひと將しょう淖たつ齒しといふ者もの案あん乃なり外ぐわい行ぎやう  
燕えんと一味いまいし母はは齊せい乃なり地ちと押おし順じゆんせんを潛せん王わうと  
捕とらへし曲まがと拔はく廟べうの梁りやうよ掛かるを殺ころしきり  
樂がく毅ぎ史しら孝かう臨りん苗なえよ苗なえり軍ぐん令れいと正せいしきり

濫らん妨ぼうと割わし賦ふ稅ぜいをゆるし賢けん人にん張ちやう禮らい  
せし六む回かい人にんを殺ころしきりし六む月げつの間まに  
齊せい乃なり七十しちじゅう餘よ城じやうと下かしきり  
三十二さんじふに年ねん初はつ潛せん王わう乃なり邊へん習じゆく王わう孫まご賈がといふもの  
淖たつ齒しり乱らんよ王わうの互あひ所ところと失あひてをりくせ  
家いへよ帰かへりき家いへり其その母ははよ諫いさらまきと市いちり  
かゆゆき淖たつ齒しりて王わうと失あひきりてせしこれ  
諫いさせんと思おもふ者ものあらし右みぎ乃なり祖そと呼よびぬ

那時より百餘人池集居て淳齒城攻

殺し滑王乃子法章此姓名とかくして

大史敗つし者の家より奴とありて居るを

尋出さるる王とて昂妻 昔此城に捕籠

三十四年楚周より推多んと固より六叔王東

周乃武公と有りて楚の令尹昭子より遊汎

子皆りれは楚乃軍を多りけり

三十五年秦の白起趙乃代光復城と攻取

目馬錯楚乃黔中とて楚又漢北と虜と

秦より敵と

三十六年秦乃白起楚の鄢鄧西陵と討取

是より先趙王和氏り璧とて名をき寶と

得るありて秦王十五城より換多賜りれ

いひありて然あつてはれんとすれは秦乃

強きと恐れ又畏んやをれは款もんると

恐れいりせんともあるを女は蘭相如といふ

多々

膽畧也、しき士ありて某使に面して  
向て之を城とらむは、んは壁と及り  
之り、らんやとて壁とけり、は多り、  
は、秦王の壁は、城とて、  
し、氣色も、  
壁よか、  
壁と取、  
皇寶と、

し、法取あり、  
は、備、  
是、  
同、  
中、  
中、  
は、  
は、  
は、  
は、

惣ふんうけそんそて其日冬先ま旅宿りやく人ひと也  
向むかしきき蔭相如いんさうじゆははけけくく事こと此こゝ祈いのちと考かんがるるに  
城じやう々々れれ多たくくととんんええののししををままれれののままにに  
從者じゆじやうのの壁かべととりりををままりり趙しやうのの返かへしし家いへ以もてて  
秦しんのの止とりりてて罷かへとと侍しやうししるる秦しん王わうもも為なるる所ところにに  
ふふききににりりてて外ぐわいへへ返かへししけけきき二十にじゅう年ねんにに多たくく事こと又また  
秦しん王わうもも趙しやう王わうもも澠池えんちとといいふふ所ところにに會あはあはあししてて好こう會くわい  
せんせんののいいひひららききれれのの後ごととゆゆふふにに憶おぼししくく

多たりりとといいふふとと蔭相如いんさうじゆはは他たににせせて  
澠池えんちにに出いでで會あはあはあししるる去こりり酒宴しゆえん半はんにに  
秦しん王わうもも不ふ可かししてて趙しやう王わうもも瑟しやくとといいふふににああはあはあししるる  
蔭相如いんさうじゆ又また秦しん王わうもも不ふ可かししてて岳がくをを多たくくとと留とどめめ  
城じやう十じゅうむむヶが所ところとといいふふとと秦しん王わう乃すなはちち壽じゆ世せいとといいふふにに  
蔭相如いんさうじゆ又また秦しん乃すなはちち咸陽城えんやうじやうとといいふふにに趙しやう王わうはは  
壽じゆ世せいとといいふふににああはあはあししるる氣き也なり  
なりなりとといいふふににああはあはあししるる秦しん王わうもも不ふ可かししてて事こと也なり



可し得たりし程に事を成りし會と終てそ  
 由りける今度の恩賞よりて蔦相如哉  
 上卿より廉頗り上座より並りける廉頗  
 是と世念と思ひ出念多らハ恥カ、折々  
 今んぞいひ事家より聞えけれハ蔦相如  
 虚病と構々く出會せし成時途頭めて  
 廉頗と見りけるありし車と横より  
 逃よりし蔦相如の家人の家

振舞面目がしとて剛とと者わりのれハ  
 蔦相如いふありし蔦相如いふ蔦相如  
 某その人なる前めて是と叱りありしは  
 是を廉頗と名を候しと思ふ蔦相如は  
 事成業するに秦乃軍と趙より加し蔦相如ハ  
 我あ人れあまハ今兩虎然らんよ蔦相  
 命乃其の好ししとも思ふ蔦相如ハ私乃  
 意飯と名く君れは大事と忽し蔦相如の

甲借<sup>こ</sup>たかしく、<sup>か</sup>悔<sup>くわい</sup>辭<sup>じ</sup>あるを<sup>と</sup>ありきれば  
 廉頗<sup>れん</sup>是<sup>こ</sup>と<sup>を</sup>圖<sup>ず</sup>る<sup>を</sup>蔣相<sup>しやう</sup>如<sup>に</sup>り<sup>し</sup>門<sup>を</sup>よ<sup>り</sup>ゆきて<sup>こ</sup>り  
 造<sup>う</sup>悔<sup>まう</sup>と<sup>い</sup>ひ<sup>し</sup>れ<sup>ば</sup>刑<sup>けい</sup>頸<sup>けい</sup>乃<sup>も</sup>更<sup>ま</sup>り<sup>し</sup>て<sup>首</sup>きり  
 多<sup>く</sup>樂<sup>がく</sup>も<sup>も</sup>且<sup>も</sup>恨<sup>うらみ</sup>と<sup>思</sup>ふ<sup>を</sup>し<sup>て</sup>し<sup>の</sup>復<sup>た</sup>の<sup>更</sup>り  
 と<sup>を</sup>悔<sup>まう</sup>たり<sup>き</sup>家<sup>を</sup>去<sup>り</sup>る<sup>を</sup>復<sup>た</sup>樂<sup>がく</sup>齊<sup>せい</sup>乃<sup>も</sup>七十  
 餘<sup>あま</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>攻</sup>め<sup>り</sup>し<sup>を</sup>し<sup>て</sup>其<sup>の</sup>首<sup>を</sup>昂<sup>あがり</sup>譽<sup>え</sup>れ<sup>ば</sup>兩<sup>りゆう</sup>城<sup>じやう</sup>伐  
 攻<sup>を</sup>め<sup>り</sup>し<sup>を</sup>復<sup>た</sup>攻<sup>を</sup>め<sup>り</sup>し<sup>を</sup>遠<sup>とほ</sup>攻<sup>せう</sup>と<sup>あり</sup>し<sup>を</sup>  
 多<sup>く</sup>殺<sup>ころ</sup>す<sup>を</sup>も<sup>も</sup>之<sup>を</sup>皆<sup>みな</sup>め<sup>を</sup>と<sup>あり</sup>し<sup>を</sup>し<sup>て</sup>人<sup>を</sup>

昭王<sup>しやう</sup>よ<sup>も</sup>樂<sup>がく</sup>毅<sup>ぎ</sup>七十<sup>に</sup>餘<sup>あま</sup>城<sup>じやう</sup>と<sup>攻</sup>め<sup>り</sup>し<sup>を</sup>  
 智<sup>ち</sup>謀<sup>ぼう</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>之<sup>を</sup>年<sup>ねん</sup>す<sup>て</sup>あ<sup>ま</sup>城<sup>じやう</sup>を<sup>落</sup>し<sup>て</sup>を<sup>る</sup>  
 心<sup>こ</sup>底<sup>ぞ</sup>を<sup>た</sup>ら<sup>し</sup>め<sup>り</sup>し<sup>を</sup>諛<sup>げん</sup>言<sup>げん</sup>の<sup>し</sup>ひ<sup>を</sup>あり<sup>し</sup>を<sup>れ</sup>  
 昭王<sup>しやう</sup>よ<sup>も</sup>群<sup>ぐん</sup>臣<sup>しん</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>石<sup>せき</sup>集<sup>しゆ</sup>の<sup>酒</sup>盛<sup>せい</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>彼<sup>か</sup>の  
 諛<sup>げん</sup>言<sup>げん</sup>の<sup>し</sup>ひ<sup>を</sup>家<sup>け</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>し<sup>て</sup>首<sup>しゆ</sup>刑<sup>けい</sup>の<sup>し</sup>ひ<sup>を</sup>  
 相<sup>あ</sup>國<sup>こく</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>て<sup>し</sup>樂<sup>がく</sup>毅<sup>ぎ</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>齊<sup>せい</sup>王<sup>わう</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>け<sup>り</sup>  
 樂<sup>がく</sup>毅<sup>ぎ</sup>の<sup>し</sup>ひ<sup>を</sup>思<sup>し</sup>入<sup>り</sup>し<sup>を</sup>二<sup>に</sup>心<sup>こ</sup>の<sup>し</sup>ひ<sup>を</sup>統<sup>と</sup>記<sup>き</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>書<sup>か</sup>て  
 劫<sup>せき</sup>り<sup>し</sup>れ<sup>ば</sup>齊<sup>せい</sup>國<sup>こく</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>初<sup>はつ</sup>め<sup>に</sup>諸<sup>しよ</sup>侯<sup>こう</sup>乃<sup>も</sup>國<sup>こく</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>を</sup>

信義と感服して誰傾んやの者と  
可うけ字後より犀雲此大将より田單と  
智略多く向き者あり世年昭王薨して  
子恵王の孫と樂毅と中使あり國を  
田單間者と信ひしはやうの樂毅齊よ王  
多らんをたると齊人ありまことつらき  
犀雲乃為りた事よ世時長と侍と  
んを家地の大を伐り多しありあらん

犀雲乃不日よ攻落まんりしを元かかれと  
いひゆらけき恵主誠をたのひ騎叔と  
者成ありしを樂毅よかろつたれは田單  
火牛をいふ武畧と云く  
浩つる尾よ葦把とほゆととき又よ火とつけて夜り  
向きれ敵の陣よ放ちかち六牛の尾よ火乃付るに驚き  
怒り一文字よ敵乃陣小く入るる小くよ負死人數百人出来て  
深く布へ引續て切先と搦へ多切て御り謀外り田單初て  
武畧より一戰よ打破り騎叔と討取七十  
餘城と取ると襄王と迎へられは襄王田單と

えびえん

安平君と号し國政をせしむる也たいしきの太史敷り

女と号しいそひは是君主后とてえん名をのり居たり

去河の樂毅りやへいまり字趙よ立退しし程也

後趙王燕と伐るが法合ありし六樂毅

漢とららしと流し其昔昭王よ居りし

今日大王よはうすせしむるに若又は存

万一眾夢りて此國よありゆらんも王乃

清子孫とゆふを存するやといなれハ

趙王と感心しそを多りけき實小わり

かめ紀名はしそ國しそ家行も不備宛りて

望諸君と号しぞうこれハ燕めと共子樂間よ

誦嗣せし昌國君とてあしりき家姓年

齊乃孟嘗君死しし諸子家姓と多し

家絶しり

三十七年秦の白起楚と伐るあひ郢と攻る

夷陵と燒伐よありしハ頃襄王君ハ楚

陳<sup>ちん</sup>の都と<sup>く</sup>し<sup>く</sup>の<sup>こ</sup>回都と攻められし  
乃<sup>が</sup>こ<sup>い</sup>の<sup>い</sup>次代<sup>い</sup>に<sup>い</sup>莫<sup>い</sup>所<sup>い</sup>乃<sup>い</sup>あり<sup>い</sup>の<sup>い</sup>夷<sup>い</sup>陵と  
して<sup>い</sup>燒<sup>い</sup>立<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>る<sup>い</sup>事<sup>い</sup>は<sup>い</sup>深<sup>い</sup>き<sup>い</sup>恥<sup>い</sup>辱<sup>い</sup>と<sup>い</sup>爲<sup>い</sup>り  
多<sup>い</sup>し<sup>い</sup>矣

四十年秦魏と伐り大梁伐圍韓の加勢  
と伐破り首回萬と討取

四十一年秦又魏と討て首回万と討取

四十二年趙魏と韓と伐り秦は伐

加勢して兩國乃勢と打破り十五萬人  
と討取

四十三年秦白起と大将めて韓魏を牒し

合せ楚伐伐せし楚乃黄歇使去りて

秦よりありし書り其より國多し書し

楚と親しき韓魏齊趙は自然と

よ小入りしししし秦王はししし

とらるるししししししししししし

和議わぎさうりひ楚太るよ黄歇つきて人質  
少して秦めを面りにせよ

四十五年秦乃兵趙の閼興あつよと圍多りし六  
趙奢ちやうじやといふ名將と援ごづめ信しんとしてさしむけら  
趙奢ちやうじや邯鄲はんたん出陣し每まづ僅まづ二里ほりけりそ  
陣を正し軍乃異見いけんいそんとのハ死眾  
あつと觸ふけりけり秦の軍武安ぶあん北西より  
陣より鐘かね太たい敦とん乃名武安乃人家いへ歸かへ音

わうり今や落んぞんさうりける或人  
いと紀まえ武安と救きう出でしといひ一六を信是と  
切き之を控まも護ごりかいついて居ゐりまゐかかくく毎  
二十八日といふよ秦乃間者趙乃陣ままりしと  
物なり食せうりて行いくく一しまれハ  
秦此大將をよ圍おつさうりおと信ひけり  
趙奢ハ間者といふと信しんしんくく引ひかかりり  
お立たくく一日一夜のみよさうりて閼興あつよ間ま近ぢんく

陣取ありては、是れを以て支那を以て  
秦乃熱勢をこくと打て掛る趙の軍士  
許歴といふ者あり北ある山嶺取切あり  
軍八千人といひるまは趙著を合し多兵  
一萬指向日けるかくせんとす秦の方也  
我取切んとかき來りしりと争むる様  
人、是れを以て一度よ切りしりハ  
秦乃軍散くはらひなされ國兵の圍ハ解り

ける恩賞ありて趙著と馬收君を討し  
初魏乃范雎といふ者中更須賈より  
齊にゆきありしに齊乃襄王との辨言  
賞欲し多金とすりしに須賈四此密  
事と泄しあるゆゑと思ひゆりて魏の相  
魏齊よりしりしに魏齊怒りて助と  
押打齒とすかき賞卷より多廟乃中に  
並賓客かきしりしに溺ありしり范雎死する

真似まにして免まぬま出いめりしを鄭安平ていあん定さだりし者  
かくすいさくすい並名ななと張祿ちやうろくと改かりし折せしを秦の  
王わう魏けいといふその魏小使きせよ来り連つりて  
毛と秦王よ進めけ教初て見糸乃時けん范雎  
そらあらしけし永えい巷乃日よ今れこんのごん官者  
怒りて母はは處ハ汝等なんぢらあらしき初はつめありし次  
らや王此法があらしきとて進しんまをれハ范雎  
とけりあらしし秦よ兵へい太后たう穰侯じやうこう乃のと

河かりせしときけあふ王わうしやせしひ多おほし  
き家け変へんつ王をわう故こく出い来りてをあらしめしと  
固こたりけ孝かうのの後ご右みぎ此人を拂はらひしよ上かみのの后  
乃の西せい車しやのの孝かう下した大臣だいじん小せうしよるすて保たもつれ  
中ちゆうせきせきんんとありしれハ范雎はんきうありしと  
その猶なほと多おほしと一いつとと國こく日にちののひいし  
向むかへ先まづ他た國こく乃のもとのと王わう此こ心こころ破やぶれんを  
初はつめいい遠とほく交まり進しんめ攻せめしと齊せいと交まりし



詰じつひて韓魏と攻む。穰侯魏わい再また韓魏と  
討たかて齊と攻む。魯ろの敵たかを討たかつて斗たかひてゆつて  
きれば秦王の心は協あつひ害が歸けいして軍法乃  
相あひ佐たすけ魏と伐たかつて懷あつつて西伐攻取あり。  
是初はつて危あや難しく謀まつて用もちひあるとて圖あえけり。  
四十  
七年

秦乃はつてた祭まつるものは高たか鼓つり魏と欺あきそ  
河内れ地と取とる是は司馬錯し謀まつて  
蜀乃はつて富たか強つりあるとてあれ二は危あや難しく

遠く更またり近ちかく攻たかつとつて湖うみと用もちひ  
多おほく是は二は世よの策さくを天下てんかに敵たかあり  
又案またする人は皆みな多おほく才さい智ちたつ海うみき  
もの多おほくは其その氣きは元もとよ志し大おほくして  
必かならずとあらハ一ひとの志しを逆さかつて奪うばふ  
人はも忘わすれざるもの人はも忘わすれざるもの  
終つひに才さい強つき志しの調ていはつてかゝるもの

身と進まゐる道みち成なりつたた紀元きげん九世くせ身と

始はじまるまるる一いっつつ道みち此こゝ絶たえくくななままききと思おもへへる

時ときハハええるるそそ弊へい衣い簾せん食く庸よう人じんの下したに

屋やてて鼻はなううららたたれれくくららをを何なに處ところきき必かならず

己おののの智ち力りきとと裁さい富ふ貴きといいははるる米こめん

ここ一いっ或あるハハ化くわ由ゆうゆゆきき權けん勢せいととささむむく

本ほん國こく乃の害がいととああるる高たか鞅きやう危けい離り類るい是こゝ也なり

或あるハハ盜たう賊ぞく奸けん人じんのの剽せうととありありてて國こくのの亂らんと

引ひ出だししのの懸げん布ふ彭ほう鼓このの類るい是こゝありあり お人の各條  
の各組の臣

なり初盜賊  
なり記きり 世よ教きやう人じんのの者もの己おののの國こくよよ身みとと進まゐ

處ところ道みち此こゝ一いっ筋すぢああるる何なに處ところハハ皆みな富ふ國こく

我われ亂らん乃の功こうととああららむむ下した何なに系けい王おう親しんに

そそのの刑けい憲けんとと祀まつりそそのの事こととと板いた者もの

へへきき是こゝとと以もつてて先せん王おう乃の代しろはは實じつ興こう道みち廢はい

選せん舉きよ及きやう等たうああんんのの法はふあありりててかり

おと人ひとはは勝かちままつつたた者ものハハ才さいよよああるるてて

公侯乃言其位也身成進むる

道成一篇あまといれ九天下此異才

俊秀多る者として精力あわん限り

と道成を盡さし忠信仁義の人と

あしこ四日月を脱かざるものを

板取らるるに残りきはりの庸陋

愚者乃人のいなまへに折れりしと

かし出し得くきしはまの選挙及策れ

法とつるは治の助と求るのめり

亂乃源とささくは術とそそり

四十九年范雎も秦王とよ入るると思ひ

太后及魏冉を悪るとして中まりしは

秦王是れきま真母を后と推おろし魏冉

芋戎公子市公子懼等を遣りて范雎を

以て丞相とせしめしり

五十年秦趙と伐て滅すつた討た趙滅す

加勢と法<sup>こい</sup>をれハ長安君とシ不<sup>きん</sup>連枝と人質に  
送<sup>こ</sup>りハ加勢せんといひをれとを石の愛  
子めく申く辱る海とありしと左<sup>さ</sup>卿觸龍<sup>あつりゅうりゆう</sup>  
とて少者<sup>いせい</sup>諫<sup>いん</sup>を申りしをれハ齊と楚加勢して  
秦の軍ハ退<sup>えい</sup>きしけ孝母<sup>きうぼ</sup>卒齊の襄王卒去  
あ孝子王建<sup>けん</sup>回と嗣<sup>つぎ</sup>幼かなりしと不<sup>ふ</sup>成<sup>せい</sup>ハ  
皆其母君<sup>きん</sup>王<sup>おう</sup>病乃<sup>なり</sup>らるしあり

五十二年秦の白起<sup>はくし</sup>韓と伐く城九つ首<sup>しゅ</sup>取  
り萬と討取るなり

五十二年秦れ白起<sup>はくし</sup>又韓と伐て南陽とあり  
大<sup>たい</sup>行<sup>こう</sup>乃<sup>なり</sup>通<sup>つう</sup>路<sup>ろ</sup>と取切<sup>きり</sup>り楚項襄王病<sup>けいじやう</sup>氣<sup>き</sup>  
守<sup>まも</sup>る<sup>る</sup>と聞<sup>き</sup>る<sup>る</sup>ハ黄歇<sup>わうけつ</sup>范雎<sup>はんきう</sup>といひるなりハ  
楚王の病<sup>びやう</sup>使<sup>し</sup>氣<sup>き</sup>を<sup>を</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>今<sup>いま</sup>其<sup>その</sup>  
子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>一<sup>いつ</sup>つ<sup>つ</sup>長<sup>なが</sup>く<sup>く</sup>吐<sup>は</sup>味<sup>み</sup>あり<sup>あり</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>左<sup>さ</sup>  
卿<sup>しやう</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>楚<sup>そ</sup>更<sup>さら</sup>よ<sup>よ</sup>君<sup>きみ</sup>と<sup>と</sup>立<sup>た</sup>く<sup>く</sup>ハ<sup>ハ</sup>秦<sup>しん</sup>は<sup>は</sup>法<sup>ほふ</sup>を<sup>を</sup>  
心<sup>こころ</sup>を<sup>を</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ふ<sup>ふ</sup>れ<sup>れ</sup>ハ<sup>ハ</sup>秦<sup>しん</sup>王<sup>わう</sup>は<sup>は</sup>先<sup>まづ</sup>楚<sup>そ</sup>王<sup>わう</sup>乃<sup>なり</sup>

病体へうたいとんとく氣色きしきとて黄歇わうかく又服賜いふくりし六  
黄歇わうかくをたにたき法ほり之の一の身みの秦しんよ止とり  
之の罪つみと侍まう秦王しんおうの命いのちを怒いかり黄歇わうかくと殺ころん  
どせしと范雎はんきう中ちゆうあつめて殺ころされかりけま  
厚あつて楚そを薨こうし太子たいし回かいと繼ついでぎと考かう烈れつ王わうと  
し黄歇わうかくよ不ふ領りやうらま春申君しゆんしんと号なづけ相あひと  
あつりきま。

六十二年秦乃自記韓と伐やく野王やわうと攻せいり

上黨じやうたうと韓かんの四都しよと新鄭しんてい乃なり由よし昭しやう絶てつら  
し六上黨じやうたうれ車くるま以もつ穢てい馮亭ほうていとしふよの去さ民みん也  
徒た合がふして上黨じやうたう乃なり城せう邑い十七しちヶ新しん趙てうの由よし一いち  
せんといひありきれ六趙てう乃なり平陽君へいやうきんたあして  
利りと得とくんるるハ其その乃なり端たんよゆし韓かん上黨じやうたうと秦しん  
輔ほらしと趙てうよ兵へいんといふるるハ災さい符ふと嫁よめん  
とこの事こと終しゆうるるしとあつてあつて河か後ごわらん  
あつてあつてあつてしとあつてあつて平原君へいげん若わき

かゝる海をその河向て去地と信取せり

六十五年按のまゝ秦王<sup>しゅうまつ</sup>と大将あて

上黨と攻<sup>か</sup>れ上黨の人民皆趙<sup>しやう</sup>のあて

来る趙廉頗<sup>けん</sup>よ大将<sup>だいじやう</sup>を長平<sup>ちやうへい</sup>の陣<sup>じん</sup>とて

秦の軍と<sup>し</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>わ</sup>かれ<sup>を</sup>防<sup>しやう</sup>ぐ<sup>は</sup>く<sup>本</sup>と

う<sup>ら</sup>願<sup>ねん</sup>出<sup>で</sup>せ<sup>に</sup>楯<sup>たて</sup>籠<sup>かご</sup>趙<sup>しやう</sup>主<sup>しゆ</sup>れ<sup>は</sup>氣<sup>き</sup>色<sup>しき</sup>以<sup>も</sup>乃<sup>の</sup>外<sup>がい</sup>

ある<sup>り</sup>一<sup>いつ</sup>國<sup>こく</sup>を<sup>た</sup>れ<sup>は</sup>秦<sup>しん</sup>乃<sup>の</sup>范<sup>はん</sup>雎<sup>しゆ</sup>間<sup>かん</sup>者<sup>しや</sup>と<sup>い</sup>也

馬<sup>ば</sup>腹<sup>ふく</sup>者<sup>しや</sup>趙<sup>しやう</sup>奢<sup>しや</sup>子<sup>し</sup>趙<sup>しやう</sup>括<sup>かく</sup>と<sup>い</sup>は<sup>る</sup>る<sup>ん</sup>と<sup>い</sup>は

不<sup>ふ</sup>あ<sup>ら</sup>し<sup>め</sup>れ<sup>ば</sup>廉<sup>れん</sup>頗<sup>ぱ</sup>は<sup>相</sup>と<sup>あ</sup>む<sup>か</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>は<sup>ず</sup>

隙<sup>き</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>た</sup>す<sup>る</sup>象<sup>しやう</sup>好<sup>こう</sup>ん<sup>とい</sup>を<sup>せ</sup>た<sup>れ</sup>は<sup>趙</sup>主<sup>しゆ</sup>と<sup>い</sup>は

ち<sup>の</sup>ひ<sup>は</sup>趙<sup>しやう</sup>括<sup>かく</sup>と<sup>廉</sup>頗<sup>ぱ</sup>を<sup>代</sup>り<sup>せ</sup>ん<sup>と</sup>は<sup>蔭</sup>相<sup>しやう</sup>如<sup>じゆ</sup>也

危<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>と<sup>い</sup>は<sup>る</sup>多<sup>く</sup>ひ<sup>は</sup>又<sup>また</sup>趙<sup>しやう</sup>括<sup>かく</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>し<sup>て</sup>其<sup>その</sup>父

趙<sup>しやう</sup>奢<sup>しや</sup>と<sup>兵</sup>法<sup>へいぽう</sup>の<sup>同</sup>義<sup>ぎ</sup>を<sup>し</sup>り<sup>し</sup>は<sup>趙</sup>奢<sup>しや</sup>一<sup>いつ</sup>句<sup>ご</sup>と

難<sup>がた</sup>し<sup>と</sup>い<sup>は</sup>る<sup>を</sup>終<sup>つ</sup>り<sup>し</sup>と<sup>い</sup>は<sup>る</sup>を<sup>し</sup>り<sup>し</sup>

其<sup>その</sup>母<sup>は</sup>い<sup>は</sup>る<sup>を</sup>同<sup>と</sup>く<sup>れ</sup>は<sup>軍</sup>の<sup>新</sup>懸<sup>けん</sup>命<sup>めい</sup>也<sup>と</sup>い<sup>は</sup>る

そ<sup>の</sup>母<sup>は</sup>と<sup>趙</sup>括<sup>かく</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>ず</sup>し<sup>て</sup>は<sup>社</sup>也<sup>と</sup>い<sup>は</sup>る

り此の渠よ大將とせむらんよ及一定君  
乃此人事と謀あやまらんらそとつひきりき  
今及大將蒙りありればそ母ありくのぞ  
中を止め中をれを趙まきりしうハ  
乃くハ及渠よ軍は損しありそ我々  
子紀と人の眾少免ある處もやとまきりせ  
しりとを趙王身ゆをへりけ李秦王趙括り  
かたりめをまきりそそくに白起とをりあ

王乾よかたりせ母の敵よのりしめらんよ  
死眾なるそと觸りけりる君は趙括廉頗  
小伐り軍令改め軍使ととりへ秦乃  
軍に打て掛る白起とらゆけしそ逃あり  
しと趙括勝よりつと秦の壁よそ追つめ  
ゆもして秦の軍城を破りつとよしめく  
拒き糧食と柴兵糧のよと取まりしと趙括  
かたりしとや思ひきん取出と築く楯薨

加勢は清くを待たりけり秦王かくと圖し  
六ふりり河内よゆり十五以上乃士卒は  
皆かりまゝ長平へこむけ趙の軍は浮城  
梢と嚴しく取まゝせられ趙の軍断食  
はらひ四十六日人乃肉を食ひあはひり  
めとして一方と打破くゆん中をれとまて  
叶ひて今いせんこゝろ趙括あつち切く  
おるは秦の軍を中絶と射殺しられハ

四十萬の軍勢皆秦の降系を白起趙の  
兵をうらう者おれハ乱となさんともり  
かゝりてにらりりて皆坑へ追入る殺しけり  
その降系浮に討取らる首級を捕り十五萬  
級合八十五萬人とをきこえり一食を希給る  
敗軍ありけりハ趙乃人て身の毛もよす  
かのつきまゝ

天下は地政と人の所不存をこゝに當ハ



脊骨中戸なり脊骨城人よとて

らもんよはるるそ小体乃働へさゆも

上黨既よ秦小とれぬ上ハ韓の折て

秦よ入るも中ハ子めや及小解のわふ

とそゆと歳何うあらふ魚ふ姓一職よて

天下此事いそや定あうといふ

十六年白起軍勢と之に分王訖日馬梗

城人将めも趙乃武安皮穿めんこと攻落

大原たいげんも孝上黨の代と丸あきもれハ韓魏

思もそ蘇代そたいをありて范雎はんきういもせけるハ

趙初ら到り及秦王ハ天下れ王とそありのらん

白起はくき之公とやあらんぼらん君とあきう下

存ぞんよ后中向ふ魚もや今韓趙わんてんと和造して

兵と引そせもつ白起はくきの酒ハ出来ぬ

いせれハ范雎はんきう實まこととそ思ひらん秦王小して

韓趙わんてんと和造して白起はくきの軍と引せり是も孝

白記<sup>ふき</sup>不<sup>ふ</sup>収<sup>き</sup>といふ記も家々を関する初<sup>はつ</sup>危<sup>き</sup>離<sup>り</sup>  
秦乃<sup>しん</sup>權<sup>けん</sup>威<sup>い</sup>とてり好<sup>こう</sup>須<sup>しゆ</sup>賈<sup>が</sup>秦<sup>しん</sup>に使<sup>し</sup>よ來<sup>き</sup>り六  
危<sup>き</sup>離<sup>り</sup>敬<sup>けい</sup>く小<sup>せう</sup>恥<sup>ち</sup>辱<sup>じやく</sup>成<sup>じやう</sup>わく<sup>く</sup>ようわ<sup>わ</sup>か<sup>か</sup>て魏<sup>い</sup>王<sup>わう</sup>  
小<sup>せう</sup>中<sup>ちゆう</sup>くとうく魏<sup>い</sup>齊<sup>せい</sup>の首<sup>しゆ</sup>切<sup>き</sup>て糸<sup>いと</sup>れさ<sup>さ</sup>めん<sup>ん</sup>の  
大<sup>だい</sup>梁<sup>りやう</sup>の奴<sup>やつ</sup>原<sup>げん</sup>盡<sup>じん</sup>くに切<sup>き</sup>てい<sup>い</sup>な<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>は<sup>は</sup>ら<sup>ら</sup>と<sup>と</sup>中<sup>ちゆう</sup>  
いひ<sup>い</sup>れ<sup>れ</sup>ハ魏<sup>い</sup>齊<sup>せい</sup>ハ趙<sup>ちゆう</sup>よ<sup>よ</sup>出<sup>で</sup>奔<sup>ほん</sup>して平<sup>へい</sup>原<sup>げん</sup>君<sup>きん</sup>の家<sup>け</sup>  
を隠<sup>かく</sup>ま<sup>ま</sup>け<sup>け</sup>る<sup>る</sup>此<sup>こゝ</sup>年<sup>ねん</sup>秦<sup>しん</sup>乃<sup>の</sup>昭<sup>しやう</sup>王<sup>わう</sup>平<sup>へい</sup>原<sup>げん</sup>君<sup>きん</sup>とす<sup>す</sup>り<sup>り</sup>  
よ<sup>よ</sup>せ<sup>せ</sup>て<sup>て</sup>是<sup>こゝ</sup>と<sup>と</sup>わ<sup>わ</sup>し<sup>し</sup>先<sup>まづ</sup>魏<sup>い</sup>齊<sup>せい</sup>の首<sup>しゆ</sup>割<sup>わり</sup>と<sup>と</sup>か<sup>か</sup>つ<sup>つ</sup>ま<sup>ま</sup>い<sup>い</sup>

平原<sup>へいげん</sup>君<sup>きん</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>中<sup>ちゆう</sup>海<sup>かい</sup>と<sup>と</sup>趙<sup>ちゆう</sup>王<sup>わう</sup>れ<sup>れ</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>  
ま<sup>ま</sup>れ<sup>れ</sup>ハ魏<sup>い</sup>齊<sup>せい</sup>又<sup>また</sup>魏<sup>い</sup>よ<sup>よ</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>信<sup>しん</sup>陵<sup>りやう</sup>君<sup>きん</sup>を<sup>を</sup>斬<sup>ちぎ</sup>ん<sup>ん</sup>せ<sup>せ</sup>  
た<sup>た</sup>し<sup>し</sup>ひ<sup>ひ</sup>し<sup>し</sup>ら<sup>ら</sup>信<sup>しん</sup>陵<sup>りやう</sup>君<sup>きん</sup>對<sup>たい</sup>面<sup>めん</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>て</sup>い<sup>い</sup>ひ<sup>ひ</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>  
よ<sup>よ</sup>し<sup>し</sup>き<sup>き</sup>く<sup>く</sup>怨<sup>おん</sup>こ<sup>こ</sup>怒<sup>ど</sup>く<sup>く</sup>自<sup>じ</sup>害<sup>がい</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>趙<sup>ちゆう</sup>王<sup>わう</sup>の<sup>の</sup>首<sup>しゆ</sup>  
を<sup>を</sup>河<sup>か</sup>内<sup>ない</sup>秦<sup>しん</sup>よ<sup>よ</sup>興<sup>きやう</sup>へ<sup>へ</sup>平<sup>へい</sup>原<sup>げん</sup>君<sup>きん</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>危<sup>き</sup>離<sup>り</sup>  
其<sup>その</sup>恩<sup>おん</sup>と<sup>と</sup>信<sup>しん</sup>陵<sup>りやう</sup>王<sup>わう</sup>鄭<sup>てい</sup>安<sup>あん</sup>平<sup>へい</sup>の<sup>の</sup>口<sup>くち</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>官<sup>くわん</sup>途<sup>と</sup>の<sup>の</sup>  
子<sup>こ</sup>を<sup>を</sup>中<sup>ちゆう</sup>海<sup>かい</sup>に<sup>に</sup>ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>又<sup>また</sup>家<sup>け</sup>財<sup>さい</sup>法<sup>ぽう</sup>散<sup>さん</sup>して<sup>して</sup>恩<sup>おん</sup>あ<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>  
一<sup>いっ</sup>飯<sup>はん</sup>乃<sup>の</sup>勳<sup>いん</sup>と<sup>と</sup>し<sup>し</sup>て<sup>して</sup>必<sup>かならず</sup>報<sup>ほう</sup>ひ<sup>ひ</sup>睚<sup>がい</sup>眦<sup>さい</sup>乃<sup>の</sup>然<sup>ぜん</sup>と<sup>と</sup>て<sup>して</sup>鹿<sup>ろく</sup>月<sup>げつ</sup>



あまのふらみ命よりやの遺恨とと返報せん  
あまのふらみ命

五十七年初元離りしゆえと白起の軍引  
とらりし孝白起病氣と稱して引籠りれ  
此年王陵より大將を遣り邯鄲と圍れんと  
軍はとらりしゆえと續く王翳を打て向ひ  
邯鄲を攻めしゆえと復し平原君より  
楚よりゆき楚王に對面して加勢を頼りれハ

春申君大將めを打て向ひ魏をまも晋鄙  
に十萬れ兵つめて固界より出陣せしむ  
秦滅忍れしゆえと復し平原君の夫人  
ハ魏の信陵君れ姉ありしゆえ頼り使者引  
きし頃催はる信陵君色とと魏主より  
進めしゆえと頼りなむれしゆえと  
侯嬴もしゆえ者の謀と月ひく魏王の愛妾  
如姫より軍れ割符を留めしゆえ晋鄙

陣而ゆきしひ魏王此作也いつい了晋鄭と  
殺して其軍勢と奪取鄭うびさう小打て向ふ其後  
秦よりまいらく攻められしと其の代の國都  
なれば其年と脱るるまをれと急よ後下りし  
んさりけき白起鄭鄭の軍ハ何となく秦  
をゆるやめんそのあごをゆる中由國えられハ  
昭王怒りて是罪白起よ其向へし何りこれ  
とと病きりありしとて其出さるる官位と

剥とぎて其平さく杜郵ととまうしハ處りて自害とて  
乃せしりき家とくくはる内ハ楚魏の加魏也  
着陣ちやくじんし信陵君しんりやうきん奪取て秦の軍と鄭鄭乃  
下めてるよ切破きりやぶしハ王起ハ引て向う鄭鄭  
乃圍を解とけられハ信陵君軍勢とハ魏よと  
その身ハ趙よ山りけき  
五十九年秦韓乃陽城やうじやうふ自秦攻取おと首  
数四萬と討取又趙と伐く二十余縣を攻取

首數九萬と討えける殺王也れて諸侯を  
合縱一而秦伐討せんよのけ結構をくく  
秦の孝將軍樛と大將として伐て向ふ殺王  
をくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
ゆきし其沛傾三十六邑人民之萬殲次秦に  
勅り身乃蘇と後多ひかれの秦乃昭襄王  
土比人民と法治て殺王とハゆくしてり下  
系くせもるう終年遂くは卒くのひ武王より

三十五代八百六十七年にして周の天下をくく  
平王東遷すしじ、紂王威日に衰く  
戦國の時となりて又二ツにわく多れ其  
土比人民大國乃を更れ不領も及ん  
りくくくとして下猶ありまくなりて王位  
と多ひ終るくくく根を國して源から  
りりりりりりりりりりりりりりりりりり  
文武成康乃御代よりくくくくくくくくく  
禮儀儀儀

あらんことを悔り仁徳と施し  
深くて民の耳目に見えられ  
髓よあみらるる多き其の子孫衰へ  
あひまるともあかきとせんすれ  
先主此立あひし礼儀をいふを忘れ  
かゝるみ又背きし衆をせんすれ  
先主乃施しあひし仁徳の病さ  
これ建と成らば是共長久よほき

あひしゆあんとせり  
司馬温公乃論

天と地との仁と禮との二つは道

道はわし大學に為人君止於仁

論語に治國以禮也孔子乃

を論ずる理なり

去病よ去年己乃年とてあふ甲斐

に此の事あれと流石被王此王位

をこれと文武乃流石被王此王位

又一人なりを幸と爲しと母年丙午乃春

うまハ一天四海ノ天子と云ふなり

世の中あり秦 昭襄王 五十二年 楚 考烈王 八年 燕 王

三 齊 王建 十年 韓 桓惠王 十八年 魏 安釐王 二十二年 趙 孝成王 十一年 乃

七頭政とありへありと云ふんこれと韓魏ハ

脱々秦ハ屬國乃やうに討たれその作の

四ヶ國とて之秦の軍とわしらひてと詮

不世と云やかうと云ふなりけり

考王乃中桓公河南に封せられそ子孫

西周といひては頃より續きたりし王室

脱々ありおぬる上ハ其人氏今ハ

と云ふいふん東國して逃散せられ共

寶器と及皆秦と奪大集取共君文公成

愚抗聚也いふ不遷一もて西周ハ

と云ふに也そあり母年范離子ハ

かき王魏鄭安平等追々に罪

范雎の權威くけあり定むる一久燕の  
蔡澤といふ者来りて范雎といひ侍て身成  
列せぬ代り多し秦は丞相を成らざる  
丁未乃年韓の桓惠王ハ秦に入朝し魏乃  
安釐王ハ四乃政道皆秦に下知とそ法より  
多し

戊申乃年秦初く郊の祭志より 都の外三十里に壇とす  
天子此の地原也

庚戌乃年秦の昭襄王薨く子孝文王 柱  
立韓乃桓惠王衰經く喪服着くより  
吊にゆきよりき是諸侯乃天子よりは  
しはる禮節くを固え 燕王喜の子 其臣  
栗腹と趙よりりて念頃といひ海よりしに  
栗腹向りてやや趙乃兵啓長平より  
討死くそ強る者もみぬとゆると趙と  
伐き向くと進めぬはゆくと栗腹より



大將ちやうこそその發はつ向むかを將渠しやうきよ樂間らくなと諫いさめ  
せられさきさききりてしと王わうより後陣ごじんと續つぐん  
とく眼備まなこと率ひきひて出馬いっばあり將渠しやうきよ王わう乃後のち  
乃のち帶おび印のよはりて引留ひきどめられハ王わう足あしめて是こゝと  
蹴けありけき將渠しやうきよ法はふ為な成なりハあるは  
しととく涕なみだと流ながしられと平へいめとし是こゝに  
并立ならびたし果はし多おほ廉頗れんぱんと切きられ敬けいくに  
ありて四都しよとよ逃にげれり將渠しやうきよと扱あつかせ

趙ちやう乃兵へい多おほありと紀きけり  
卒そつ亥がい乃卒そつ秦しんれ孝文王きやうぶんわう位ゐと即すなはちは僅ひん之の首くび  
小せうと卒そつしりりしりりと卒そつ楚そ立た是こゝと莊襄王しやうきやうわうとハ  
莊襄王しやうきやうわうの孝文王きやうぶんわうの仲なかつのちありて昭襄王しやうきやうわう乃時  
公子異人こうしゐにんとハ人質にんしやくとありて趙ちやうと居ゐりしと  
陽翟やうたつ乃大商人おほあひしやうにん呂不韋りふふゐ也なりハ者しや是こゝとんて  
是こゝ奇貨きか可か居ゐ也なりハ  
奇貨はふりしりしきありあ  
中ひつもの可居はあひしちて  
異人ゐにんより少せうなりハ君きみ二十餘人にじゆじゆにん乃出見いすの

中にさうく父<sup>ちち</sup>のたまふ愛せられぬ中<sup>ちゆう</sup>に  
何<sup>なに</sup>れ世<sup>よ</sup>存<sup>ぞん</sup>父<sup>ちち</sup>の太子<sup>たいし</sup>乃<sup>すなはち</sup>回<sup>くわい</sup>有<sup>あり</sup>ふとも悉<sup>しつ</sup>必<sup>ひつ</sup>  
其<sup>その</sup>世<sup>よ</sup>嗣<sup>し</sup>と<sup>なり</sup>ぬ<sup>べし</sup>ふ<sup>べし</sup>一<sup>いつ</sup>と<sup>と</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>  
華<sup>わ</sup>陽<sup>やう</sup>夫人<sup>ふじん</sup>の父<sup>ちち</sup>乃<sup>すなはち</sup>世<sup>よ</sup>覺<sup>かく</sup>儀<sup>ぎ</sup>の<sup>の</sup>由<sup>よし</sup>也<sup>なり</sup>  
乃<sup>すなはち</sup>世<sup>よ</sup>嗣<sup>し</sup>と<sup>なり</sup>ぬ<sup>べし</sup>ふ<sup>ふ</sup>の<sup>の</sup>所<sup>ところ</sup>  
世<sup>よ</sup>頼<sup>らい</sup>ある<sup>なり</sup>れ<sup>べし</sup>某<sup>たがひ</sup>涯<sup>がい</sup>分<sup>ぶん</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>も<sup>も</sup>ん<sup>ん</sup>の<sup>の</sup>  
そ<sup>その</sup>く<sup>く</sup>也<sup>なり</sup>の<sup>の</sup>乃<sup>すなはち</sup>孫<sup>そん</sup>急<sup>きふ</sup>と<sup>と</sup>賞<sup>しょう</sup>調<sup>てう</sup>一<sup>いつ</sup>秦<sup>しん</sup>乃<sup>すなはち</sup>  
乃<sup>すなはち</sup>華<sup>わ</sup>陽<sup>やう</sup>夫人<sup>ふじん</sup>の<sup>の</sup>女<sup>むすめ</sup>乃<sup>すなはち</sup>是<sup>こゝろ</sup>と<sup>と</sup>夫人<sup>ふじん</sup>の<sup>の</sup>

執<sup>たてまつ</sup>り<sup>り</sup>累<sup>かさね</sup>人<sup>ひと</sup>の<sup>の</sup>孝<sup>かう</sup>心<sup>しん</sup>深<sup>こゝろ</sup>く<sup>く</sup>を<sup>を</sup>子<sup>こ</sup>と<sup>と</sup>夫人<sup>ふじん</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>慕<sup>ぼ</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
新<sup>あらた</sup>ら<sup>ら</sup>ぬ<sup>べし</sup>と<sup>と</sup>披<sup>ひ</sup>露<sup>ろ</sup>し<sup>し</sup>乃<sup>すなはち</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>  
乃<sup>すなはち</sup>夫人<sup>ふじん</sup>の<sup>の</sup>孝<sup>かう</sup>心<sup>しん</sup>乃<sup>すなはち</sup>厚<sup>あつ</sup>く<sup>く</sup>世<sup>よ</sup>親<sup>おや</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>慕<sup>ぼ</sup>ふ<sup>ふ</sup>  
い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>世<sup>よ</sup>子<sup>こ</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>早<sup>はや</sup>く<sup>く</sup>公<sup>こう</sup>達<sup>たつ</sup>の<sup>の</sup>  
乃<sup>すなはち</sup>孝<sup>かう</sup>心<sup>しん</sup>なる<sup>なり</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>世<sup>よ</sup>嗣<sup>し</sup>乃<sup>すなはち</sup>定<sup>さだ</sup>め<sup>め</sup>  
ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>世<sup>よ</sup>身<sup>み</sup>乃<sup>すなはち</sup>未<sup>ま</sup>だ<sup>だ</sup>と<sup>と</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>乃<sup>すなはち</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>  
い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>せ<sup>せ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>乃<sup>すなはち</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>乃<sup>すなはち</sup>女<sup>むすめ</sup>の<sup>の</sup>儀<sup>ぎ</sup>を<sup>を</sup>い<sup>い</sup>は<sup>は</sup>る<sup>る</sup>  
乃<sup>すなはち</sup>衰<sup>おとろ</sup>ゆる<sup>る</sup>乃<sup>すなはち</sup>思<sup>おも</sup>ひ<sup>ひ</sup>乃<sup>すなはち</sup>一<sup>いつ</sup>言<sup>ごん</sup>乃<sup>すなはち</sup>一<sup>いつ</sup>言<sup>ごん</sup>

あふりけうのひはあまや公子累人の恨復  
乃此子るれハ世解をぬまふるハたひ  
ふ常あふり今夫人れ此をうらひゆく取  
あまうれ戸しう所せあけ累人の國あして  
國成時夫人の子なうして子とわりのをり末  
のあふり常あふりしうのひまね夫人  
いうあをさく折と傾ひあまよりまきさか子と  
るうて酒常あう呂お草とふあて傳わて

はせられあふりあま呂お草邯鄲は希は  
美人張石並共復よこう子とあまより或時  
累人よ累せあまよりせて是と累人ハ件小  
送うけらう終よ男子故とりけあう好よ  
始皇帝せしひハ女人なり實ハ呂お草ハ  
種なりこれと誰知人とあうしけまそそ存  
王陵王乾邯鄲と圍ハ時呂お草昔の者に  
賂さうせて免まき出秦乃軍よあま入る國小

之の夫人よよみえりし夫人よりあはれ  
とと楚を改く世嗣をあらしし終よよとハ  
継ありけきありて華陽夫人成華陽を居  
せあり免其寶母夏姫と夏を居とて宗  
壬子乃年秦れ莊襄王呂不韋と相國  
文信侯と封しあり東周の君諸侯と沸り  
多し秦伐伐んよの地結揃ありしハ莊襄王  
呂不韋と沸りし是とと一そ君と陽人

秦よ遷し系しせきれハ后稷文武の由糸ハ  
終形とあり絶しりけきを絶といふを中  
愚りり秦りり子韓乃滎陽成舉と封取  
之川那を也

癸丑の年秦趙と伐て三十七城と攻九  
甲寅乃年秦畫く上黨乃諸城と攻取し  
太原那と也秦れ蒙犛と魏と伐て魏乃軍  
屢破とせりハ魏王是と愛て信陵君と拓

しつと信陵君魏王の氣色と様うのり  
うくくしくしく公薛公とふ二人の  
先人のをうの君乃諸侯よ皇せれふ  
魏より本國にありて今本國  
事急あるに君心もあまゆるは若秦の軍  
大梁城と攻落し先王の宗廟と取墮る  
向く君何の面目ありて天下れ人と見  
ふんとつひこれいひと果ぬよ信陵君顔

色かしく日におましく魏よゆりこれ魏王  
うらむと將軍とあつりけ孝法侯信陵  
君魏よゆりありと國を我もくか魏と  
出これ信陵君五箇の勢と知して  
蒙鰲と河外ありて討やう函谷関の  
追信れ秦乃兵頭と出は信陵君  
武威天下に振ひを秦是とうまひて  
黄金萬斤と出しく間者を入晋鄙の客と

よのこ魏王よ諺言げんげんさせり只魏王是にまゝひ  
人よ信陵君よ代からせり信陵君世ハもや  
是こすそしおのひ不し勞ろう也稱あつしよ出仕しとるめ  
日夜酒色ちよしやくよ耽ふりふのまに樂がりら活かつ回かい年  
にして年ねん一いつありわ月秦乃莊襄王薨かうはる子  
政せい立是と始皇帝也しし年ねん僅まよ十二なり  
呂不韋と仲父ちゆうふと號ごうし回乃政道せいだうと任まする  
襄公初し周の平王乃時回賜まりし孝三十

二代五百七十年續つきありし嬴氏乃種は  
莊襄王めその絶たえつりし

孝文莊襄二君よんもた世よともありせり  
是呂不韋ちよつ不ふ為いめやと胡致堂こちだう論ろんせし  
つゝるにそ移うつしき呂不韋あれいりねる  
秘術ひじゆつつやめせんそ世よのやら知ち人と  
なるるもいんいんつらりしき也事じの根ね也  
渠ねの心こころと成なりめりしとそい疑ぎをくし

あらしと見しより實之胡致堂は其の紀

眼とす胡致堂の歴史に背行する人をして歴史

又案するに秦の獻公石門乃戰し繁

昭襄王周と亡す昭襄王周と亡すよむるまで五君一百

十一年の間秦乃諸侯の卒と殺せしむ

斬首百九十八萬八千人沈合せか

と世を圖えしか系例なりき暴威と恐

して天下と切あらしめし兵力

誰敵しよりのとありし嬴氏の基業

萬世のとありしのとありしと思ふ

天道好還の福善禍淫乃道

理のなりのありしのとありしの

召の草のやの大の赫のとの生のしの周の滅の亡のしの

僅十年と立のありしのにの四のののやの代の始の乃

あのとのあのけのるのしのあのしのあのれのさのまのは

人の成の殺のしのとのあのくの威のとのあのるのさのまのは

子孫の榮いふつさむありやハあり

乙卯きつね乃年今年秦始皇帝元年也韓乃桓惠王秦を

けりりして軍と開東よ出させ海とく

鄭國こく空く者者と間者間者よりりて涇水けいみと

ぬいて河水かみを流ながしつる也ありりして進め

車くるまれ本もとよそ謀かろる者ものにして鄭國こくの首くびとを

らくつたにけりり鄭國こくの事こと不ふハ韓の

為なりりして謀かろる者ものにして成なりつる

よ及秦乃國萬世よろづ此こゝ法は為なりり

者ものもハ所ところハ子こ一いつ果はせりり國中ちゆうの

水みづと切きる者ものにして新あらた答こた乃なり濟せい回かいは既すでに

口萬頃むんげん此こゝ上かみ田でん出し来きり秦しんをなすりり富

ゆりりめりり

丙辰へいしん乃年今年秦始皇帝元年也魏えい乃なり魏えい陽やうと

攻こう落らくしもりり考かう成せい王わう堯やうして悼たう襄せう王わう立た樂らく

衆しゆとりり廉頗れんぱんよ代たりせりり八廉頗はつれんぱん魏えいよ



出奔ありし其存趙の軍度と敗軍ありし  
しつ悼襄王廉頗の事と男ひ出て見せし  
多れを使と有りしに廉頗は表凱ある  
郭同也いふとの使去よ金とせし  
らせける廉頗使者に對面し一斗乃飯  
十斤れ肉うらふて鎧引り多馬よお  
一廉月めも立直さいきるひとんせし  
げ孝使者ゆつていふるに廉頗年高の事

いづれとゆじをわらひしと終の向ふ  
之夜りて瀕してゆらひしに悼襄王と  
かつは進さりき

丁巳乃年 始皇三年 秦う孝韓と伐く十二城と  
攻るに世時趙よ李牧といふ名將あり白奴  
乃防とて代雁門かんといふと在ありし  
曰く牛とあるし孝卒といふ所 騎射乃  
誓古三皆白奴の切入所よは陣屋よかすて

かろりもれハ匈奴こく隠かくしにりとありひあをり  
大軍と記し切へるハ李牧を殺りきりし  
軍勢とあり一戰ハ匈奴此十餘萬騎を  
討取東胡林胡をんと攻降しぬハ單たん于  
匈奴の王乃もこれ十餘年同銷れ回うらり近ちかりき  
得えんたりき

己未きびの年始皇五年秦魏と伐り二十城と攻奪し  
東郡とうぐんと之をり

庚申こうしんの年始皇六年諸侯秦乃龍りゅうひ来るを中  
時匈奴こく伐りきし楚趙魏韓衛合縱ごうじゆうし  
楚王其頭取しゅうとし春申君しんしん大將たいしやうを秦と伐りて  
壽陵じゆりやうと討り函谷關わんこくかんを推りし秦乃軍  
切を出されハ五ヶ國ハ軍皆敗軍してあり  
之を楚の朱英しゆゐんといふもの中ちゆうに沛はい希乃時ハ  
秦楚之間に韓魏を周隔くわく多れハ社二十餘年  
の間秦の楚を伐りしハありけり今韓魏ハ

あつゆ

胡太子ひひひあん川はきハまろあつり

秦楚北合戦や初りかつんとつひれハ楚王

忍れ多壽春に都とそ遷しき家

癸亥の年始皇初始皇帝初年ありしハ

母華陽太后呂不韋と密通志をもり始皇

日と追と成長ありりれハ呂不韋と此死せん

事と忍事己り家人嫪毐をいふものと官者

ありと偽り官刑せられて陰室とひきよめとふれと

右病よ糸くせ男子二人かんざまて誕生ある嫪毐

権威とゆふい回乃政道皆渠り斗ひありし

と年と事ちん露らん邪さ針さうり明めいわらんと圖とええハ

嫪毐わんれて兵と起とるちんと冒平君昌文

君等よ命しそおそくせごう徒類と多る

右兵と雍中ようちゆうひふあい押おし菴あま共二人のい伐は殺ころし

きり後あう蒙もう焦せうといふあのい諫いよい繁はんてい母子ぼしの

間まふれいといありいたりい初楚の春申君共

君考列王のふりさうとうまひのひ子成す  
生んつとちのめ女と多くまひつせしを孝治よ  
懐妊ハあつりけ孝養よ趙乃國の李園とす  
りの妹春申君よわのりて懐妊とすし  
の李園妹よ教く春申君よいそせをるハ  
楚王いよの西子御しよとてり王の百歳の  
好ハ兄中の内よて國をあらんはら免  
けら共方極の人とて世よひりてらわら

危れ君いつまえつかる榮華とまららぬ  
へさ今日らハ身あつたらん覺ん難志は  
人をゆるし君のつらふと王よ御つとせめん  
に天れ幸めて男子成りけらけは是君れ  
法子國敵のひなん楚乃國を盡く君乃  
所心れよたゆアとつひけれ春申君は  
とく是とまよらめりせしるをうて男子と  
らみよの太子とあり李園の妹と名し李園

日と遊くを好む道と執ありしう  
春申君の事をとりらんものやわらん  
是と殺して口と臧さつやとむらひはるる年  
考烈王薨しりしうの李園武士と仰門の  
内よゆせ並春申君の出仕る所然とすしと  
立寄り刺殺し妹乃うみたるをよけまくと  
世嗣とて是と幽王とすひさうけ。

呂不韋黄歇り極悪大罪あけて論らる

よて忠水一そ巧計こうけい秘術ひじゆつ天下人の  
目と掩ひつらうとあひくられと天の冥譴めいけん  
あや乃れらるる舞ふ踵かかととめくららゆり  
首の根をえけるそん地がをれ又莊襄  
考烈二君乃色よあひて父祖の血脈と  
あらけらるるいふ者もやうと怒らふ又虚氣  
るやうへうとあまの論らるるをこれ  
あまらぬ何れ夷れ匈奴けいこのあまらぬ

多に首子と殺さしめしむる何れおわ  
血脉とみくらんとおれりおとせきこ  
るしゆまの祖家れ統とつぎ終らん  
辱んことおき此身の進く百まん女の  
いうめを厚く守るべきにゆめあり  
只一時の身よめそかりおれし何れんた  
いれぬ禍の種とらぬとこころも  
はしむるべきにゆめあり

甲子乃年始皇十年秦は大臣僉議して他國の  
人ハたのくそを國乃しめとせむたのまん  
はらぬ一切は旅人の皆あり出て追立よ  
とて觸えうりけしめた楚國の人李斯といふ者  
を追立此中よりし定書してしをるうハ  
穆公乃月ひあひし由余百里も其塞せんに  
あんと皆化國の者めそ考ふ此高鞅こう惠王  
乃張儀昭王の荒離えん是も化國のよめに

いふやいづきと秦乃は為仕つては統志ハ  
仇武人ノ秦ノ影日向仕つるハハ  
之善惡乃擇之如く旅人等らんよハ  
一切ノ逐立りん事ノ敵ノ徳付るハハ  
是と寇ノ母也をハハ盗ノ糧と送るとヤ  
中屋ノ心えぬはもらひとあは存ハハ  
いふれ始皇をそ逐客ノ令となせ  
李斯と平ノ官より終ノ其謀と見い

窃ノ諸侯乃四ノに韓士とや或ハ金也  
あんと成送るうさ侍とからひ又ハ  
此申とあハハ向ハハい存良將に  
兵つもそ引續く打撃向ハハい政年ノ  
間ハハはあハハ天下とそあハハハ

丙寅ノ年 始皇十二年 初秦ハ相國臣ハ罪罷わリ  
多官とそめらま領地ハハ甲子  
諸侯とそ其復任わらんり中後使若ハハ

きつて来りし六始皇帝何事と引出らん  
はらんとして蜀は流罪せられ是の呂布輩  
忍れ多う敵と自ら鵠毒と欲ては死  
多うけり

丁卯の年 始皇十三年 秦は李趙と成てその人

扈輒を討取られは趙李牧は大将を宣安

めて秦は軍と敵く小破してつるを

己巳の年 始皇十五年 秦は趙の復孟嘗君を

落しきり又李牧は逐く引くを

辛未の年 始皇十七年 是は李先韓日くは衰へ

連枚の韓水としは者と使して秦はあり

藩はとたしんとしは入 丁卯の年 又南陽の地と

敵して 庚午の年 秦は媚られをかあつてして秦

白史勝とありて韓王安と生捕韓と滅し

その領川郡とありてありける景侯は孝十一代

一百七十四年にして滅あり



壬申じんしん此年しねん始皇しきう秦乃王翦しんせん趙と伐趙ばつしやうす

李牧りまきよ大将だいじやうをせ防せうりれの秦しんを李り趙しやう王わうの壁へい

臣しん郭かく同どうよ賂まへとらせし李り牧まきとらりらきり

せんつといをせりれの趙しやう王わう衛ゑいとおのひくく完

張ちやう敖あう一いつあり

いふよ趙しやう王わう遷せんとらりらきりを李り牧まきと

向むかひのわらう功こうれありしをと考かうらうてや

者ものつとあふとかくのひるるるるる

謔げく言ごんやのふののはうくも巧こうなる物ものとせ

見みるるふの魏ゑい乃の文ぶん侯こう文侯樂羊に申

清きよりのせり人多たひたくを文ぶんののあらうて一いつ筵いんにみら

多おほれをと樂らく羊やうと疑ぎひをして終しゆうよ中ちゆう山さんと伐ばつたり燕えんの昭しやう王わう

見みるるふの

癸酉みづのえ此年しねん始皇しきう王わう翦せん趙しやう王わうと生なま捕とらへし趙しやうと

滅めつして初はつ悼たう襄せう王わう愛あいよのりまきて嫡ちやく子し嘉かを

行ゆらして王わう遷せんをなげるらし丑しの年ねん脱だつくて王わう遷せんをとらし

多る上ハ諸を交嬖子嘉とも立く代王也

号一燕乃執と一のみありて上谷を陣と

居あり楚乃幽王薨して汝都立

郝の庶兄員芻是と殺して國を推丸たり

甲戌乃年始皇二十一年初燕の太子丹人質となり

多趙ありし時始皇と親しむるに其後

又秦の人質ありしは始皇に禮と振舞われ

ハ腹をえりて逃ゆるの年いりぬと

遺恨とさる所んぞあり衛人荊軻あり

刺客乃志してそのかきし使志は立く

督尤の地汝軻んと被殺して秦より有り

始皇對面ありし時刺殺せし天に名を

乞ふと首を毒薬とめり地圖の奥に卷

隠して所持せし家かく多咸陽宮より有り

荊軻みりて地圖を以て始皇に被身た

入を以て是乃奥に首を切りし始皇に

彼と互と闘ふと一刃は始皇の御まきり  
きりまきりよりさ劍と抜んとせしを忠節  
はまのくもあつらひれは柱をめぐりて逃のび  
まきりまきりよ出する事あまふ人々よ仰ふ  
上代下と交と失ふ又秦北法は殿上めく  
兵仗を帯するもいと禁して女物持する者  
あまれは只よめりて打合を家右乃人々  
心劍と背よ負と抜めると教りれは御くに

抜るは 荆軻と尾居と切す忽れは首と  
しこと投つをれを柱よ切らうてあつはま  
終よ荆軻と切殺し八割めを驛をせし祭  
始皇大よ腹をよめゆめく軍勢を催して  
王翦のよ一りむけ燕乃都薊乃城を  
攻つあめり

乙亥の年 始皇二十一年 王翦又薊とを屠しまは  
燕王喜遼東よ落ゆきを子丹が首切て献る

丙子（いひ）代年始皇 秦乃王（きん） 貴魏（き）と伐て（きん） 黄河（くわ）に

水伐（すい）不（ふ）測（そく）とせし（し）か（か）ち（ち）六魏王（ろく）あり（あり）一（いっ）に降

人（ひと）となりて出（い）り（り）家（か）と是（こゝ）と教（し）して魏（き）と滅（めつ）し

け孝文侯（こうぶんこう）より孝（こう）代（だい）二百十九年（にひやくじゅうきゅう）よりして亡（な）ひ（ひ）きり

初始皇（しよしきやう）楚國（そこく）と攻（せう）つ（つ）ん（ん）は（は）い（い）り（り）て（て）る（る）此（こゝ）兵（へい）り（り）入

る（る）し（し）て（て）不（ふ）將（しやう）李信（りしん）より同（どう）一（いっ）六（ろく）二十萬（にじゅうばん）より六（ろく）萬（ばん）より

向（むか）し（し）て（て）王（わう）前羽（ぜんう）より同（どう）六（ろく）十萬（じゅうばん）より路（ろ）を

ら（ら）んと（と）中（ちゆう）を（を）勝（しやう）し（し）て（て）る（る）よ（よ）り（り）て（て）李信（りしん）蒙恬（もうてん）あり（あり）持

小二十萬乃兵つとて祭向（せう）し（し）て（て）王（わう）前羽（ぜんう）ハ病（びやう）亂（らん）と

稱（しやう）して頻陽（ひんやう）め（め）て（て）向（むか）し（し）て（て）る（る）云（い）は（は）る（る）此（こゝ）年（ねん）李信

勝軍（しやうぐん）より軍（ぐん）法（はふ）西（せい）より引（ひ）く（く）九（く）處（ちよ）と楚人（そじん）の二日（にじつ）之

夜息（いせい）ととほ（と）う（う）て（て）進（しん）み（み）て（て）る（る）よ（よ）り（り）て（て）是（こゝ）と（と）う（う）ち（ち）あり

教（しやう）して（して）ぬ（ぬ）く（く）逃（たい）ふ（ふ）り（り）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ始皇（しきやう）人（じん）より怒（いか）り（り）て

ら（ら）り（り）頻陽（ひんやう）よりゆ（ゆ）き（き）て（て）王（わう）前羽（ぜんう）より魏（き）言（ごん）より中（ちゆう）より

よ（よ）り（り）て（て）六（ろく）十萬（じゅうばん）乃兵つとて（と）る（る）て（て）向（むか）し（し）て（て）る（る）此（こゝ）ハ楚國（そこく）乃

丁丑（ていしゆう）乃年（ねん）始皇（しきやう）二（に）十三年（じゅうさん） 王前羽（ぜんう）楚（そ）より打（う）ち（ち）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ楚國（そこく）乃

丁丑（ていしゆう）乃年（ねん）始皇（しきやう）二（に）十三年（じゅうさん） 王前羽（ぜんう）楚（そ）より打（う）ち（ち）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ楚國（そこく）乃

丁丑（ていしゆう）乃年（ねん）始皇（しきやう）二（に）十三年（じゅうさん） 王前羽（ぜんう）楚（そ）より打（う）ち（ち）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ楚國（そこく）乃

丁丑（ていしゆう）乃年（ねん）始皇（しきやう）二（に）十三年（じゅうさん） 王前羽（ぜんう）楚（そ）より打（う）ち（ち）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ楚國（そこく）乃

丁丑（ていしゆう）乃年（ねん）始皇（しきやう）二（に）十三年（じゅうさん） 王前羽（ぜんう）楚（そ）より打（う）ち（ち）ぬ（ぬ）れ（れ）ハ楚國（そこく）乃

軍兵國中とらうつ事討て出王翦らんと  
掛合と取上と築を拵菟日と士卒に湯と  
初りせ物うへ食せと遊りせ並軍せんを  
せりりけ事楚の軍是よ退居して引んと  
す教取と遊討て伐とかり思ふ國より  
端々將軍項燕討た傷よ棄して城  
とそ居しき所

戊寅の年 始皇二 十四年 王翦終る楚滅し

楚王負芻とを捕て楚郡とを置り  
毛遂と繆繆とを四十九代八百九十年に  
して初らひきり

己卯の年 始皇二 十五年 秦の王貴はいて遼東

と攻落し燕王喜とを捕り燕を滅し  
又代王嘉とを捕り代と滅しけ事燕ハ

召公奭とを四十四代九百三十一年に

亡趙ハ列侯とを代王よとり十一代



百八十二年小一母七ひり

右周威烈王二十三年より孝成王元年己卯

秦始皇帝二十五年より一八十二年

乃間と戦國七雄せんこくちゆう此世やせん子統せんづ中

丙午の年より癸卯迄二十四年つ間一天

曰海より天子といふものありき世なり

以て庚辰の年始皇帝齊とありり

天下統一統を秦れ世といふ

